

教育理念	「学力がつく・やりたいことを極める」新しい高校
目標(テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業</li> <li>学ぶ楽しさを体験する科学的授業で、生涯を学び人に</li> <li>目覚めよ！自省力、やりたいことにチャレンジ</li> <li>徹底的な個人指導と親身なサポート体制</li> </ul>

※評価基準…A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:出ていない

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善方針	
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有がされている。	B	教育課程の編成・実施の考え方について、特に新課程及び旧課程に関して教職員による理解度を向上させる余地がある。各教科の年間計画を基に遂行していく。	本校に留まらず、本部及び姉妹校との連携を深め、全体での研修や科目担当者との打合せができる機会を増やしていく。	
		教育目標	生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っている。	A			
	教職員連携	組織運営	本部及び本校の校務分掌や主任体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されている。	A			
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われている。	A	校務分掌や各主任体制が適切に機能し、学校としての運営・責任体制が整備され、教職員間の相互理解・信頼関係に基づいた教育活動が行われている。	職員会議やスクーリング会議などの定例会議以外に、各委員会を充実させ、危機管理意識の向上を図るとともに、より高い運営をしていくよう努める。	
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれている。	B	職員会議を柱にし、スクーリング会議や各委員会などが、一層、有効かつ効率良く機能するよう改善する余地がある。		
		会議の有効性	職員会議・スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能している。	B			
	財務関係	財務に関する意識	経営指標と財務状況について理解している。	B	経営指標・経営状況についての理解に関しては、全ての教職員が理解しているとは言えない。定期的に運営状況を提示し、共有を図りながら努める必要がある。	職員会議もしくは別日程にて会議を開催し、運営状況の理解を深めるよう努める。	
		財務状況の把握	予算・決算の収支状況に関して理解している。	B			
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。	A			
		安全管理	学校内の安全点検管理及び諸活動が実施されている。	B	関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はとれているので問題なし。開校以来、大きな事故・事件・災害などもないため、教職員の危機管理意識が怠慢にならないようにしていかなければならない。	生徒指導部主催による定期的な危機管理意識を高めるための研修等が必要である。	
危機管理対応状況		危機管理マニュアルに基づき、町役場、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。	A				
渉外	生徒募集	学校説明会の実施や学校案内パンフレットなど、効率的な広報に工夫・充実させる。	B	他県からの入学者は順調に推移しているが、地元(茨城県・大子町)からの入学者を増やせる手法に努めなければいけない。	茨城県及び教育委員会、他広報全般などのメディアを活用しながら、創意工夫を凝らしながら認知度拡大を図る。		
	各教育機関との連携	市町村教育機関への訪問や県私学連絡協議会加盟校と連携した広報活動していく。	A				
教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。	A	スクーリング参加日程が選択になっているため、生徒の要望に応じて参加することができる仕組みになっている。面接授業の評価については高いが、それに満足せず、より質の向上を図っていく。インターネットを活用したレポート内容については、学習成果(興味・意欲・関心が向上する)があるよう内容に修正していくよう努める。	現状に満足せず、科目による授業研修を行い、更なる質の高い授業提供ができる機会を設定するよう努める。インターネットを活用したレポート内容については、メディア学習を効果的に行い、学習成果(興味・関心・意欲)があるよう早急に改善していくよう努める。	
		スクーリング内容(面接授業)	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開していく。	A			
		レポート内容・添削	レポートが学習成果(興味・意欲・関心)につながる内容になっている。また、インターネットを活用した添削結果の遅延がないよう、計画的な業務を行っている。	B			
	情報発信	ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っている。	A	学校独自のネット開設(通称:マイページ)により、学校イベントなどの情報提供を行っている。また、定期的な発行物(通称:ルネ高通信)を自宅に発送し、生徒だけでなく、保護者にも情報提供を行っている。しかし、閲覧率、開封率については調査をしていないため、確認をしていく必要がある。	情報内容(スクーリング全般、レポート進捗、進路情報、イベント情報など)が多いため、精査をしつつタイムリーな情報を提供していくよう努める。	
		個人に対する効果的な情報提供	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、生徒個々の学習進捗が確認できる。	B			
	情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させる。	A	情報の教科を中心に常に進化している「ネット社会の実態」について重点をおき、タブレット(iPadmini)を使用しながら取組んでいる。ただ、進化の流れに追いついていない部分があるので、情報集取に努めていく必要がある。	外部(専門家)による講師などの協力をいただきながら、ネット社会の知識を高めていく。	
情報モラル指導		情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取組む。	A				
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)を高める。	A	生徒指導研修を実施や危機管理体制もしっかり整備されている。ただし、スクーリング期間中における連携(共有)に苦勞をしているので、効率よい業務ができるよう改善していく必要がある。また、保護者と連携はしているものの、タイムリーな連携をとるのに苦勞している。	生徒・保護者との連絡・連携が効率よく行えるよう整備が必要がある。また、生徒指導研修においても内部だけでなく、外部の協力(特に心理系)をいただきながら、より質の高い生徒対応ができるよう努める。	
		生活指導について	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識にて運営していく。	A			
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援していく。	B			
	進路指導	キャリア教育について	キャリア教育(進路指導)に取組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取組みが実践されている。	B	希望進路実現(進学・就職)に向け、個々の状況に応じたプランを立てながら支援を行っているが、向上の余地がある。特に就職関係については、一層の支援体制の充実が必要である。	ハローワークなどの関係各所との連携を強化し、成果がある仕組みづくりを行う。	
保健指導	健康の保持増進について	心身ともに健康であるための支援(定期連絡やスクーリング時における授業に支援)	A	特別活動(健康)にて、生徒の健康管理、健康増進に向けた取組みを実施している。	視聴覚教材や外部講師による授業など、年間計画をたてて更なる質の向上を図っていく。		
その他	教職員研修	資質向上	教職員間で職務内容(生徒対応など)を把握し、意見交換などを行う機会を設定している。	A			
		研修の充実(校内・校外)	教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されている。	B	生徒・保健指導研修や教科研修についての研修は実施している。成果の共有・普及が課題である。	外部で研修する機会を多くつとむとともに成果を検証・共有できる場面設定づくりを行う。	
		他校及び関係機関との連携	姉妹校、県私学連絡協議会加盟にて、通信制高校としての在り方などの情報交換を行い、学校全体としての向上を高める。	A			

